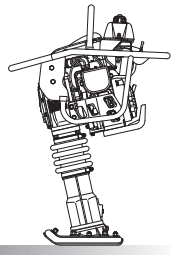
Mikasa

タンピングランマー

MT-55L
MT-55L-SS



取扱説明書

ja

三笠製品をお買い上げいただきありがとうございます。
ご使用前に本書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に保管してご利用ください。

http://www.mikasas.com

301-01712

目　次

1	はじめに	2
2	機械の用途と警告、及び構造と動力伝達	2
3	警告サイン	3
4	安全のための注意事項	3
	4.1　一般的な注意事項	3
	4.2　給油中の注意事項	3
	4.3　使用場所、換気に関する注意事項	4
	4.4　作業前の注意事項	4
	4.5　作業中の注意事項	4,5
	4.6　リフティング時の注意事項	6
	4.7　運搬・保管に関する注意事項	6
	4.8　整備上の注意事項	6
	4.9　ラベルの取付位置	7
	4.10　警告ラベルの絵文字説明	8
5	仕様	9
	5.1　本体仕様	9
	5.2　エンジン仕様	9
6	外観図	10
	6.1　外観寸法図	10
	6.2　コントロール装置位置及び装置名称	11
7	運転前点検箇所	12
8	運転	13
	8.1　始動	13
	8.2　運転	13
9	停止	14
10	手入れと保存	14
11	定期点検と調整	15
	11.1　各部点検スケジュール表	15
	11.2　点検及び保全作業内容	15,16
12	トラブルシューティング	17

1. はじめに

● この取扱説明書は、タンピングランマーの正しい取扱方法、簡単な点検及び手入れについて記載してあります。本機の優れた性能を生かし、お仕事の能率を上げ効果的な作業を進めるために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

● お読みになったあとも必ずお手元に保管し、分からないことがあったときには取り出してお読みください。

● エンジンのお取扱に関しては、別紙**エンジン取扱説明書**を参照してください。

● 補修部品、パーツリスト、サービスマニュアル及び修理に関しては、販売店・当社各営業所もしくは三笠部品サービスセンターにお問い合わせください。
なお、パーツリストに関しましては当社ホームページhttp://www.mikasas.com/の三笠WEBパーツリストでも掲載しております。

この取扱説明書に記載されているイラストが、設計変更等により一部実機と異なる場合があります。

2. 機械の用途と警告、及び構造と動力伝達

【用途】
本機は、小型軽量ながら打撃力が強く、大きな締め固め効果を期待できます。
水分の多い軟弱土以外の殆どの土質に対して締め固め効果があります。
道路、堤防及び建築物の基礎など締め固め工事ならびにガス管・水道管・ケーブルなどの埋め戻し工事に使用します。

【誤用途、誤使用の警告】
本機は、杭打ち作業や、岩盤など機械の能力以上に締め固まっている硬い地面に使用してはいけません。また、土手の法面など傾斜の大きな地面での使用は、機体が不安定になり事故の原因や、機体へ無理な力が加わることによる早期故障の原因となります。
土砂・土・砂・砂利の転圧に使用し、それ以外の作業に使用してはいけません。

【構造】
機体のウェイトとなる本機上部は、原動機部・減速機部・往復運動部のガイド部分ならびに防振ゴムを介して連結されたハンドル・燃料タンク部で構成されています。
地面を打撃する本機下部は、摺動運動を行うスプリングケース部・機体を前傾させる傾斜部・フート部及び摺動部を覆うケース部から構成されています。

【動力伝達】
原動機として空冷単気筒エンジンを搭載し、エンジン出力軸には遠心クラッチが取り付けられています。使用エンジンは、4サイクルガソリンエンジンです。
エンジン回転数を上げると遠心クラッチが繋がり、クラッチドラムと一体のピニオンギヤと本機側クランク軸と一体のギヤにより、転圧に必要な回転数に減速します。
本機クランク軸の回転運動は、コネクティングロッドにより往復運動に換えられます。この往復運動は、一対の強力なコイルスプリングを介してフートを上下運動させます。本機の重量と強力なスプリングの圧縮力によりフートを動かし、強力な突き固め力で地面を打撃します。

3. 警告サイン

本取扱説明書及び機械に貼り付けてあるラベルの⚠マークは警告サインです。安全上、必ず厳守してください。

⚠	人体に対する危険がある場合の警告サイン
⚠危険	指示を守らないと、死亡または重大な障害事故が生じる危険が極めて高い場合
⚠警告	指示を守らないと、死亡または重大な障害事故が生じる危険があり得る場合
⚠注意	指示を守らないと、怪我や障害事故が生じる可能性がある場合
注意(⚠マークなし)	指示を守らないと、物的な損害が発生する可能性がある場合

4. 安全のための注意事項

4.1 一般的な注意事項

⚠警告

- こんな時は作業をしないでください。
  - ○ 過労や病気などで体調が悪い時。
  - ○ 薬物を服用している時。
  - ○ 飲酒をした時。

⚠注意

- 取扱説明書を良くお読み頂き、正しい取扱で安全に作業を行ってください。
- エンジンの取扱は別紙エンジン取扱説明書を参照してください。
- タンピングランマーは、正規の使用目的(路盤の締め固め)以外には使用しないでください。
- 安全のため、防護具(ヘルメットや安全靴)は必ず規格品を御使用願います。作業内容によっては、保護眼鏡・防塵マスク・防音保護具・保護手袋(防振手袋)などを着用してください。各保護具は使用前に機能が充分かどうかを確認してください。
- 常に機械を点検し、正常であることを確認してから運転してください。
- 機体の貼付銘板(操作方法・警告銘板等)は安全を守るために非常に重要です。機体を清掃し、常に読みやすい状態を保ってください。読みにくくなった場合は、新しい銘板に交換してください。
- 整備する場合はエンジンを停止してから行ってください。
- 幼児が触れると大変危険です。保管方法、保管場所には充分注意してください。
- 改造や修正を加える事で発生した如何なる事故に関して、当社は一切の責任を負いません。

4.2 給油中の注意事項

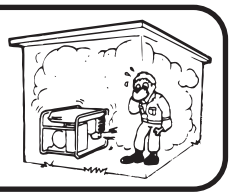
⚠危険

- 燃料を給油するとき
  - ○ 必ず換気の良い場所で行ってください。
  - ○ 必ずエンジンを停止させ、エンジンが冷えてから入れてください。
  - ○ 周囲に可燃物の無い平坦な場所を選び、こぼさないように注意してください。こぼれたら良く拭き取ってください。
  - ○ 給油中は絶対に火気を近づけないでください。(特にタバコを吸いながらの給油は厳禁です)
- 燃料は口元一杯まで入れるとこぼれる可能性があり危険です。
- 給油後は、タンクキャップをしっかり締め込んでください。

4.3 使用場所、換気に関する注意事項

⚠危険

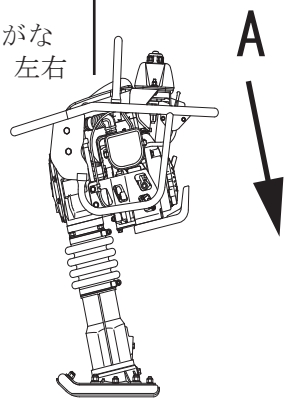
- 室内、トンネル内など換気の悪い場所では使用しないでください。エンジンの排気ガスには、有害な一酸化炭素等が含まれており、大変危険です。
- 火気のあるそばでの運転はしないでください。



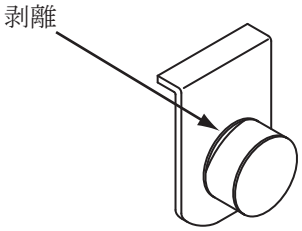
4.4 作業前の注意事項

⚠注意

- 各部分の締め付け具合を点検してください。振動でネジが緩んでくると思わぬ大きな故障の原因となります。ネジはしっかりと締め付けてください。
- ハンドル後端を右図(A)のように押し下げ、防振ゴムの破損がないことを確認してください。もし破損が発見された場合は、左右の防振ゴムをセットで交換してください。



①防振ゴムの亀裂



②防振ゴムの鉄板とゴム部の剥離

4.5 作業中の注意事項

⚠注意

- 機械を始動したり作業するときは、周囲の人や障害物に対して安全であることを確認してください。
- エンジン始動時は、急にランマーが飛び跳ねることがありますので、片手でしっかりとハンドルを握りながら、リコイルを引いてください。
- 常に足場に注意し、ランマーのバランスを保てる無理の無い安定した姿勢で作業してください。
- 運転中は、転圧盤(フート)に足が近づかないように注意してください。転圧盤に足を踏まれ、怪我をする危険があります。
- エンジン本体、マフラーは高温になりますので、運転直後などの熱いときは触れないように注意してください。
- 運転中に機械の調子が悪くなったり、異常に気付いた場合は直ちに作業を中止してください。
- 機械から離れる場合は、必ずエンジンを停止させてください。また機械を移動する場合もエンジンを停止させ、燃料コックを閉じてください。
- ハンドルを持って本体を持ち上げる場合は、ハンドルと本機の間に指や手を挟まないように注意してください。

⚠危険

転倒注意

- 作業中・停止中・保管中に、転倒しないよう充分注意してください。特に作業中のみならず、保管時にランマーが転倒しないよう、ロープ等を利用してしっかりと固定してください。幼児等が近づいた際に転倒すると、思わぬ事故の恐れがあります。また、衝撃板(フート)が磨耗すると特に不安定になりますので磨耗が著しいときは、フートを新品に交換してください。
- 作業中に機体が転倒しますと、機体は倒れたままフートのキック力により前進します。路盤が固い場合、かなりのスピードで走り危険な状態になります。運転者及び周囲の人々の安全を確保しながら、スロットルレバーをアイドリング位置に戻し、機体の運動が停止したのを確認し、エンジンのストップスイッチをOFFにし、更に燃料コックを閉めてください。特に、道路上では、予想外の大きな事故を誘発する恐れがありますので、作業現場の安全に充分配慮してください。

4.6 リフティング時の注意事項

クレーンによる積み下ろし作業は資格が必要です。クレーンの運転・玉掛け作業の資格がある人が行ってください。

⚠危険	● 吊り上げ作業に対し、本機部品(特にフック、防振ゴム)の損傷やネジの緩み・脱落が無く安全であることを確認してください。 ● 吊り上げ時はエンジンを停止させ燃料コックを閉じてください。 ● 強度の充分なワイヤーロープ等を使用してください。 ● 吊り上げ作業は図-4(11ページ)の一点吊りフックのみ使用してください。その他の箇所では吊り上げ作業をしないでください。 ● 油圧ショベルのクレーン仕様で作業を行う場合には、急激な吊り上げ・吊り下げは絶対にしないでください。 ● 吊り上げた機械の下に絶対に人や動物等を入れないでください。 ● 安全の為、必要以上の高さには吊り上げないでください。	

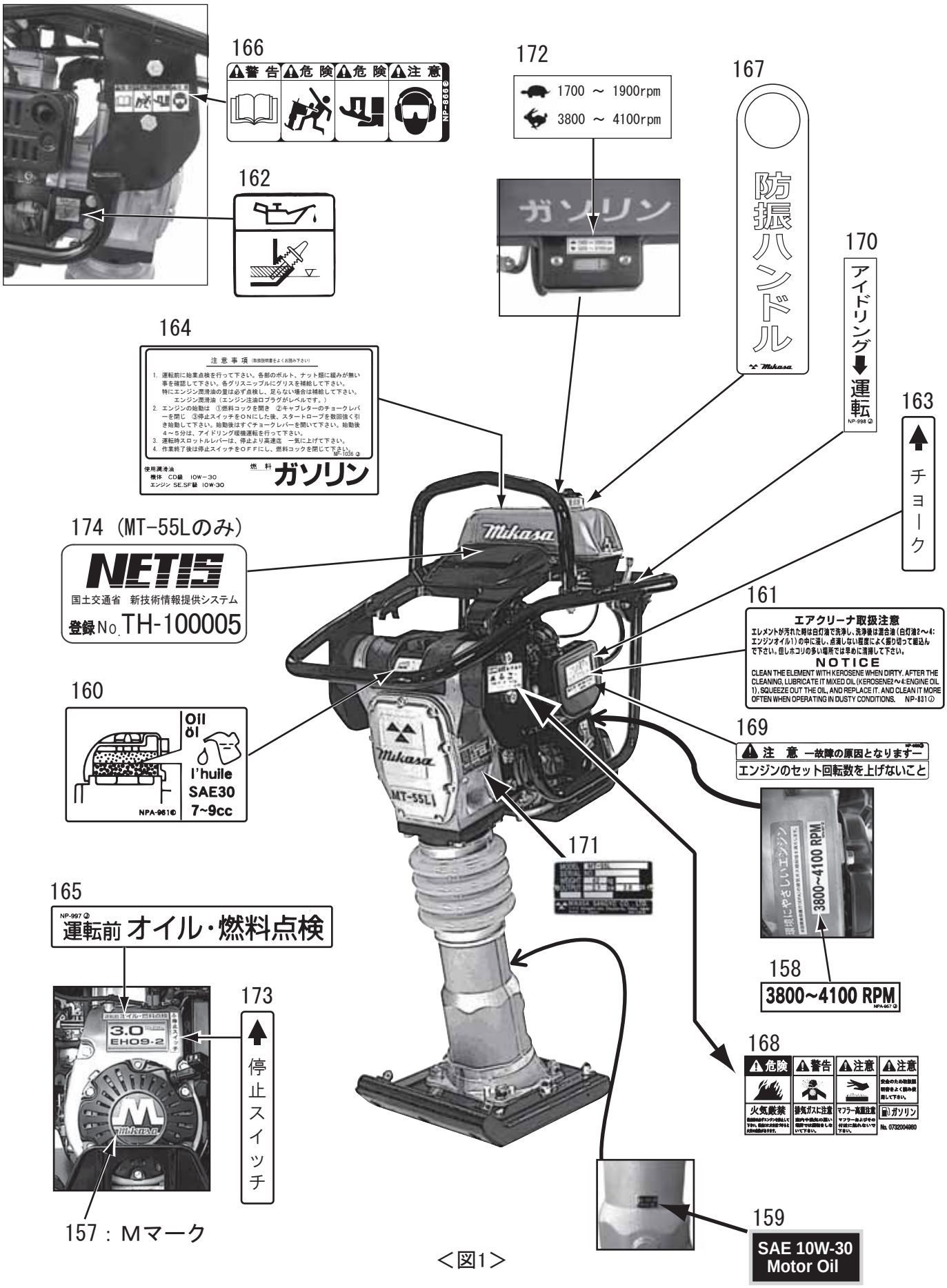
4.7 運搬・保管に関する注意事項

⚠危険	**運搬時** ● 運搬時はエンジンを停止させてください。 ● エンジン及び機体がよく冷えてから運搬してください。 ● 運搬時は必ず燃料を抜いてください。 ● ランマーは水平な場所に置いた姿勢で運搬してください。横に倒して運搬するときも倒す前に燃料タンク・キャブレターから燃料を抜き、タンクキャップ・燃料コック・オイルプラグをしっかりと閉め、エアクリーナーが上向きとなる方向に向けてください。 ● 機体が動いたり倒れたりしないようしっかりと固定してください。 ● ハンドルを持って本体を持ち上げる場合は、ハンドルと本機の間に指や手を挟まないように注意してください。 **保管時** ● ランマーは水平な場所に置いた姿勢で、エンジンや機体がよく冷えてから格納してください。このとき、機体が倒れないよう必要に応じて機体を固定してください。やむを得ず機体を横に倒す場合はタタンクキャップ・燃料コック・オイルプラグをしっかりと閉め、エアクリーナーが上向きとなる方向に向けてください。倒した後、燃料やオイルの漏れが無いことを確認してください。 (燃料が漏れる場合は、燃料タンクから燃料を抜いてください)	

4.8 整備上の注意事項

⚠警告	● 安全を確保し、機体の性能を維持する為に、適切な整備が必要です。機体の状態を充分留意し、良好な状態を維持してください。	
⚠注意	● 点検調整は、必ずエンジンを停止してから行ってください。 ● マフラーは高温になりますので、熱い時は触れないでください。	
⚠注意	● 作動油やエンジンオイルは、火傷の恐れがありますので、高温時に整備は行わないでください。 ● 整備終了後、保安部品の取付及び安全性の確認を行ってください。特に、ボルト・ナットの点検は充分行ってください。 ● 分解を伴う整備を行う場合は、必ず整備基準書を参照し、安全に作業を行ってください。	

4.9 ラベルの取付位置



＜図1＞

図No.	部品番号	部品名称	銘板番号	備考
157	9201-00240	銘板（ M マーク ）	NP－24	
158	9202-09570	銘板、E ／ G 回転数規制 4100ｒｐｍ	NPA-957	
159	9202-01950	銘板オイルSAE10W－30 ／ NPA195	NPA-195	
160	9202-09610	銘板、プレクリ ー ナ ー 取扱	NPA-961	
161	9201-08310	銘板、クリ ー ナ ー エレメント取扱	NP-831	
162	073-20045-20	ラベル オイル コ ー ション	E/G PART	
163	9201-11410	銘板、チョーク位置	NP-1141	
164	9201-08290	銘板、取扱注意 MT － F ランマ ー	NP-829	
165	9201-09970	銘板、オイル・燃料点検 ／ MT － 55 A	NP-997	
166	9201-08660	銘板、組合せ注意銘板（ ランマ ー 用 ）	NP-866	
167	9201-11850	銘板、タグ ／ 防振ハンドル	NP-1185	
168	073-20049-80	ラベル、 取扱注意 ／ EH09, EX和文	E/G PART	
169	9201-09520	銘板、エンジンセット回転数調整注意（ 和文 ）	NP－952	
170	9201-09981	銘板、レバー操作 ／ MT－55	NP-998	
171	9202-12800	銘板、製番 ／ MT － 55L	NPA-1280	
172	9202-12830	銘板、回転数指示 ／ MT － 55L	NPA-1283	
173	9201-11400	銘板、停止スイッチ位置	NP-1140	
174	9201-12610	銘板、NETIS/TH-100005	NP-1261	MT-55Lのみ

4.10 警告ラベルの絵文字説明

・取扱説明書熟読
運転前に必ず取扱説明書を良く読んで、操作内容を充分理解してください。
・転倒注意
・フートによる足の踏み潰し注意
・騒音による聴覚障害に注意
・土砂等の飛来物に注意
イヤーマフラー又は耳栓、ゴーグルを着用してください。

エンジン付属銘板
・火気厳禁
給油時は必ずエンジンを停止してください。給油口に火を近づけると火災の危険があります。
・排ガスに注意
室内や換気の悪い場所では運転をしないでください。
・マフラー高温注意
マフラー及びその付近に触れないでください。

製品番号銘板
・製品名、機体番号、重量、エンジン出力が表記されております。

5. 仕様

5.1 本体仕様

型　　式		ＭＴ－５５Ｌ	ＭＴ－５５Ｌ－ＳＳ
機体寸法	長さ	715mm	715mm
	幅	350mm	350mm
	高さ	1,025mm	1,030mm
衝撃板の寸法	長さ	340mm	325mm
	幅	265mm	220mm
燃料タンク容量		2L	
使用潤滑油		エンジンオイル10W－30	
衝撃数		10.7～11.6Hz(644～695v.p.m)	
打撃力		毎回7.4～9.8kN(750～1,000kgf)	
衝撃板のストローク		30～70mm	
機械質量(重量)		62kg	59kg

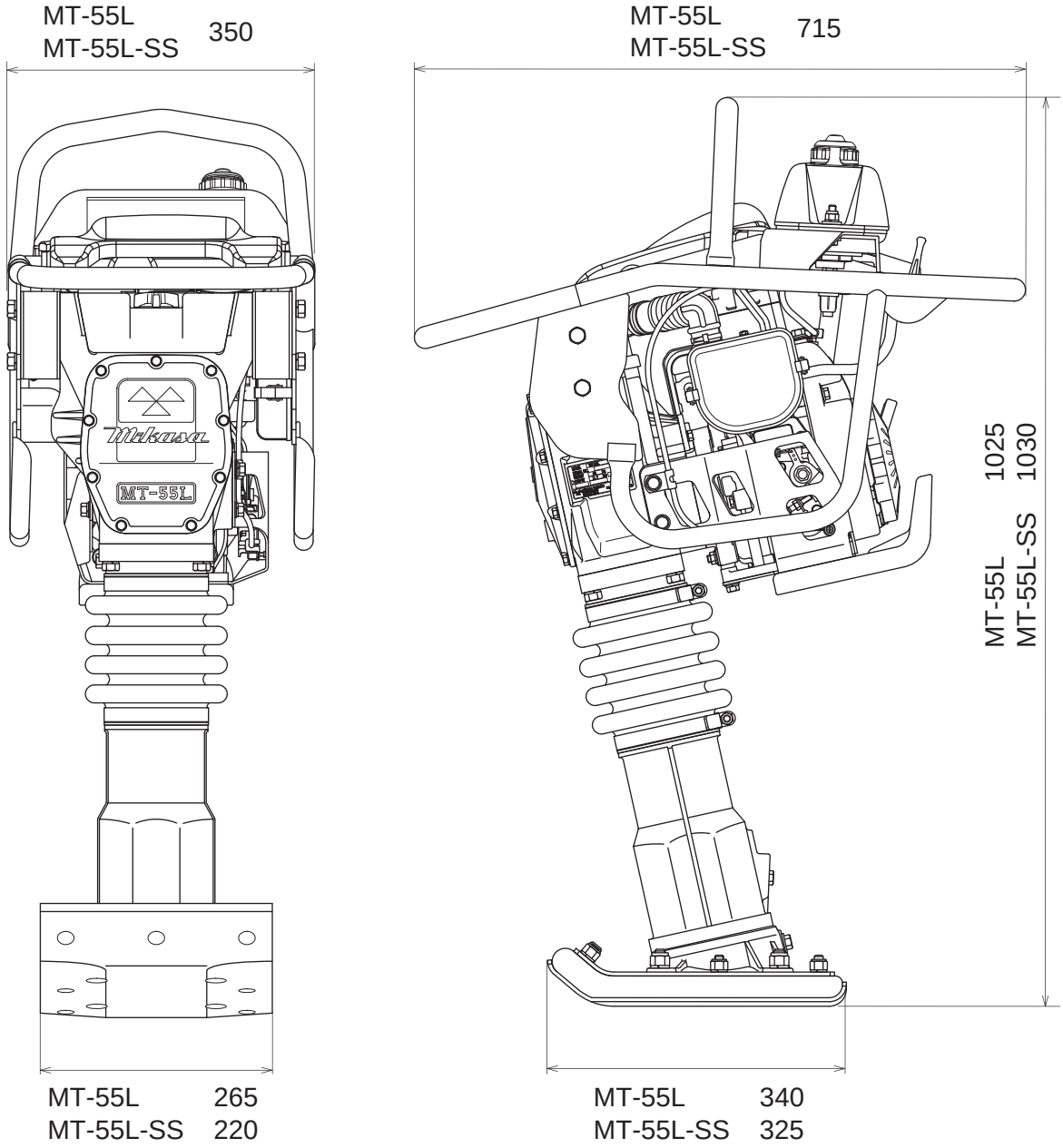
5.2 エンジン仕様

名　　称	ロビンEH09-2F
形　　式	空冷4サイクルガソリンエンジン
行程容積	0.086L(86cc)
最大出力	2.1kW/4,200min^{-1}(2.8PS/4,200rpm)
最大トルク	4.9N・m/3,600min^{-1}(0.5kgf・m/3,600rpm)
使用燃料	レギュラーガソリン
使用潤滑油	自動車用エンジンオイル(API分類SE級以上)
潤滑油量	0.3L(300cc)
点火プラグ	NGK-BMR4A
始動方式	リコイルスターター式
セット回転数	3,800～4,100min^{-1}

（本仕様は、予告なく変更することがあります。）

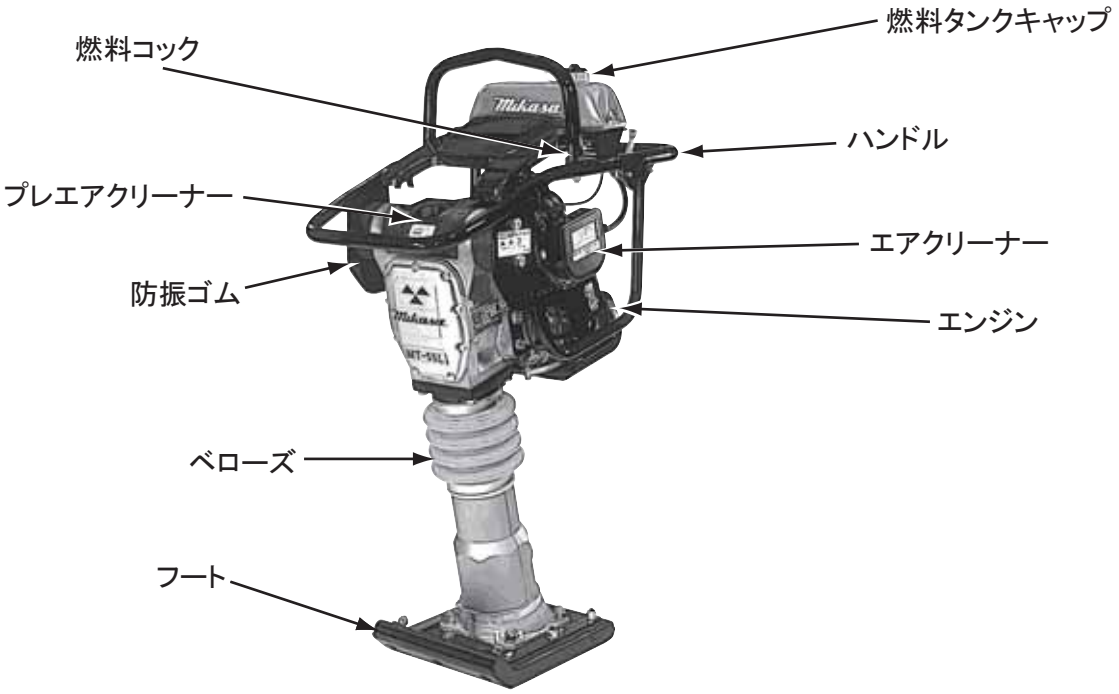
6. 外観図

6.1 外観寸法図

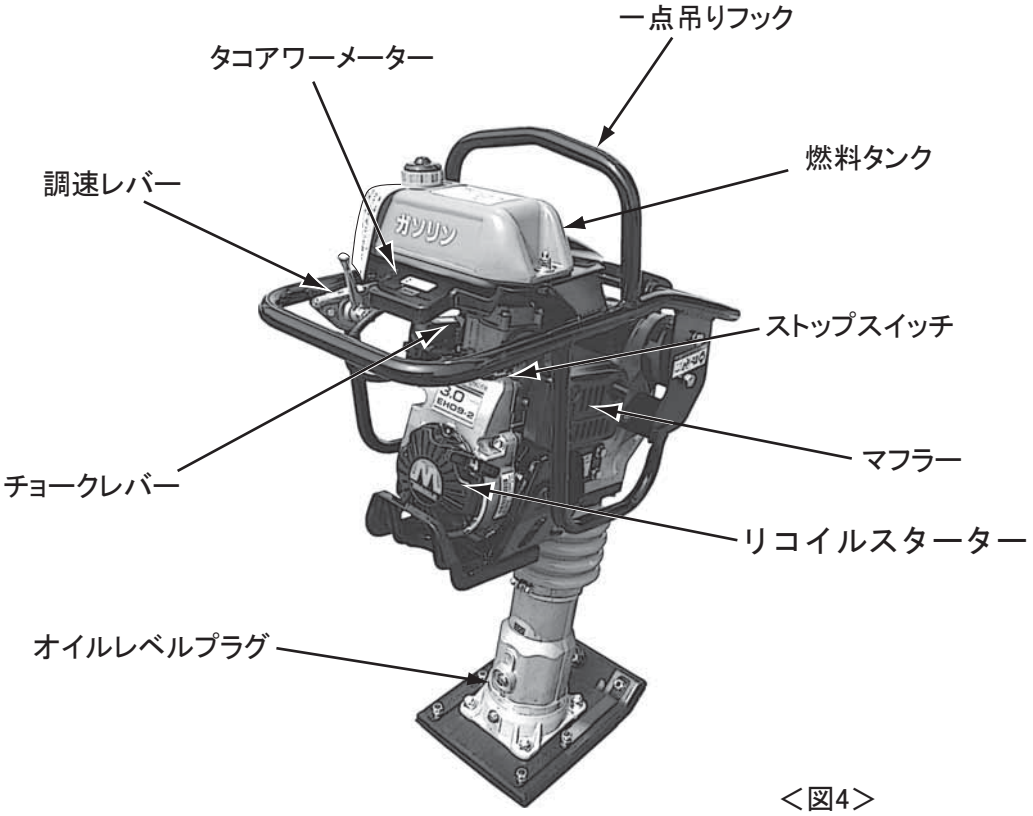


＜図2＞

6.2 コントロール装置位置及び装置名称



＜図3＞



＜図4＞

7. 運転前点検箇所

⚠警告

エンジンを停止させた状態で点検を行なってください。
機体の温度が下がってから点検作業を行なってください。
特にマフラーは高温になり、大火傷をする危険性があります。

作業前各部点検

点検箇所	点検項目
外　　観	傷、ゆがみ、汚れ
エアクリーナー	汚れ、傷、変形
ボルト、ナット類	緩み、脱落
ハンドル	傷、変形、亀裂、破損
防振ゴム	傷、変形、亀裂、破損
エンジンオイル	汚れ、油量
本体潤滑油	汚れ、油量
燃料タンク	漏れ、量、汚れ
燃料系統	漏れ、傷、緩み

7.1　各部の泥、ホコリを掃除して下さい。特にリコイルスターター及びキャブレターの周辺、フート等はきれいにしてください。

7.2　各部分の締め付け具合を点検して下さい。振動のためネジが緩んでいると、思わぬ大きな故障のもとになります。ネジはしっかり締付けてください。

7.3　エンジンオイル点検の際は、水平(平坦)な場所に立たせた前傾姿勢のまま点検してください。その他のエンジン取扱につきましては、エンジンの取扱説明書をお読みください。

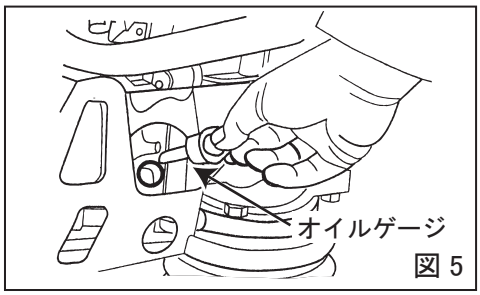


図 5

7.4　機体を水平な場所に置いて、プロテクトスリーブのオイルレベルプラグを取り外し、潤滑油が口元まで入っているかを確かめてください。
潤滑油は自動車用エンジンオイルSEまたはSF級以上の10W-30を入れてください。
MT-55L型は520cc入っております。
オイルレベルプラグ、ドレーンプラグの締め付けトルクは39.2(N・m)<400(kgf・cm)>です。　(図6)

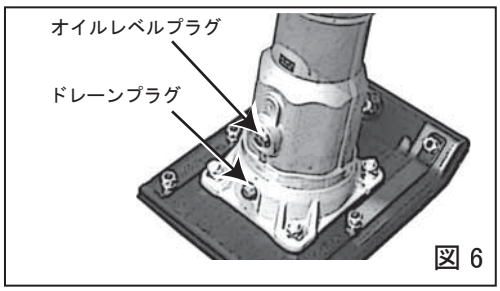


図 6

7.5　フート取付用ナットと両側及び前部の押え板用ナットの増し締めを行ってください。長期間使用しているとフートが摩耗して隙間が発生し、ボルトが損傷する恐れがあります。必ず、御使用前に増し締めを行ってください。
(図7)

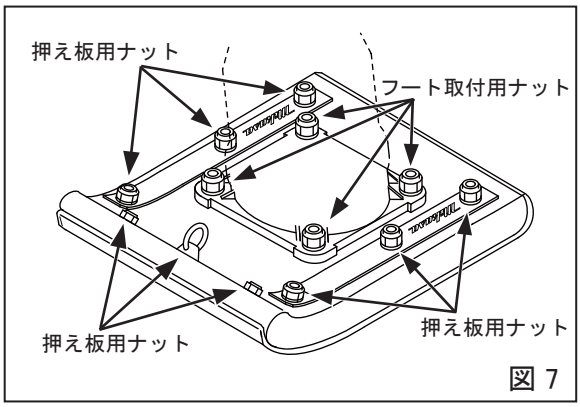


図 7

7.6　燃料タンクへレギュラーガソリン(無鉛)を入れると同時にエンジンオイルも点検し早めに補充してください。潤滑油量が少ないと、運転中の消耗により、エンジン焼き付きを起こします。(図5)
潤滑油は自動車用エンジンオイルSEまたはSF級以上の10W-30を入れてください。

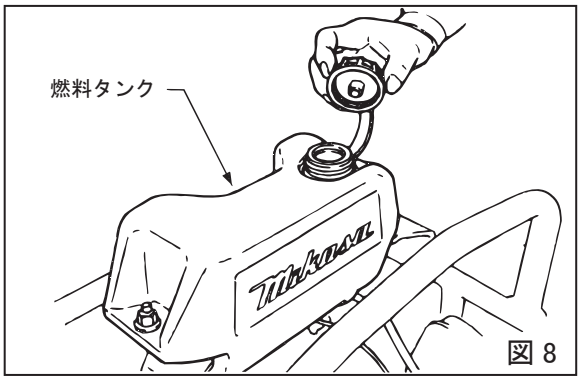


図 8

8. 運転

8.1 始動

1 燃料コックのレバーを下にして燃料を通しON-OFFスイッチを「ON」の位置にします。(図9,10)

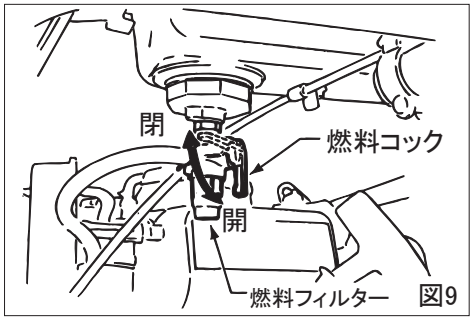


図9

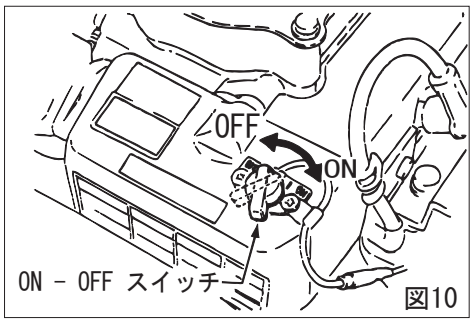


図10

2 気化器のチョークレバーを閉じ、調速レバーを停止の位置にします。チョークレバーは寒い時には全閉にしてください。夏季またはエンジンが暖まっている時には半開または全開にしてください。
また、うまく始動しなかった場合にいつまでもチョークレバーを全閉のままにしておきますと、燃料の吸込みすぎとなりますので、半開にしてください。(図11)

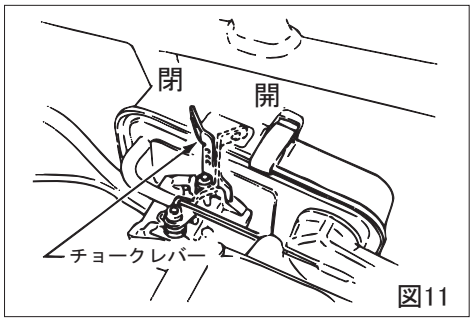


図11

3 リコイルスターターの把手を握り、少し引くと軽く手ごたえがあります。そこから勢い良く引張ってください。把手を放す時は引張った位置で放さずに、必ずスターターケースの口元までゆっくり戻してから放してください。(図12)

4 エンジンが始動したら爆発音を聞きながらチョークレバーを徐々に戻し全開にします。始動後は、必ず3～5分間低速で暖機運転を行います。この間にガス漏れ、異常音がないか点検してください。

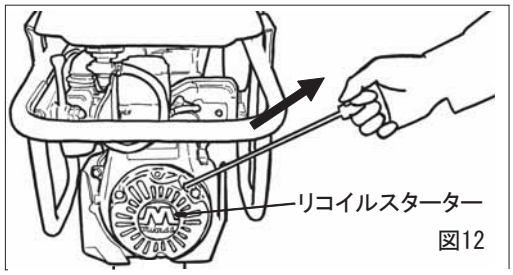


図12

5 始動困難な場合、何度もリコイルスターターを引いてもかからない場合は、点火栓を外しスパークの状態を点検し、燃料の吸込み過ぎで点火栓が酷く濡れていたり、汚れている時は点火栓を取替えるかまたは内部まで充分に清掃してください。
点火栓を外したままでリコイルスターターの把手を2～3回引いて、余分な燃料を排出させます。

8.2 運転

1 調速レバーを運転停止（アイドリング）から運転(高速)の位置へ急激に開きますとタンピングランマーが作動を始めます。この操作をゆっくりやりますと作動が不規則になり、クラッチ、バネ、フートを痛めます。

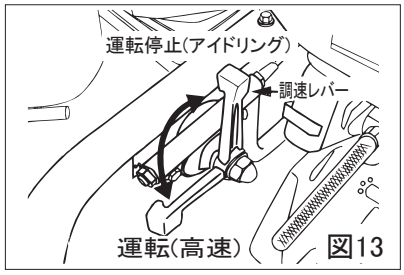


図13

2 工場出荷時点で、MT-55L型タンピングランマーは、低速回転数（1700～1900rpm）と高速回転数（3800～4100rpm）を定めています。
現場で跳躍が一定しない場合には、調速レバーを動かし高速回転数の範囲で調整して下さい。
回転数が高過ぎると、バネが共振し転圧力は落ち、機械の損傷に繋がります。

3 寒い時は機体内部のオイルが硬いので、往復運動部分の抵抗も多く機体が不規則な動きをする事があるため、調速レバーを運転停止（アイドリング）から運転（高速）へと繰り返し作動させて暖機運転をよく行ってから作業にかかってください。

4 フートの接地面には耐摩耗性に優れたメタルシートを貼って耐久性を高めてありますが、グリを打つ場合は目ツブシの土を入れて、フートが均一に地面を叩くように工夫してください。

5 機体は跳躍しながら前進しますが、より早く前進させたい場合は、ハンドルの手元を軽く押し下げ、機体をやや立たせて運転します。

6 作業を中断する時は、作動させる時の反対に調速レバーを急激に運転（高速）から運転停止（アイドリング）へ操作してください。調速レバーはゆっくり動かさないでください。

9. 停止

1　調速レバーを運転（高速）から運転停止（アイドリング）へ閉じ、エンジンを低速回転で3～5分間回して温度が下がってからON-OFFスイッチを「OFF」の位置に回してください。
エンジンが停止します。(図14)

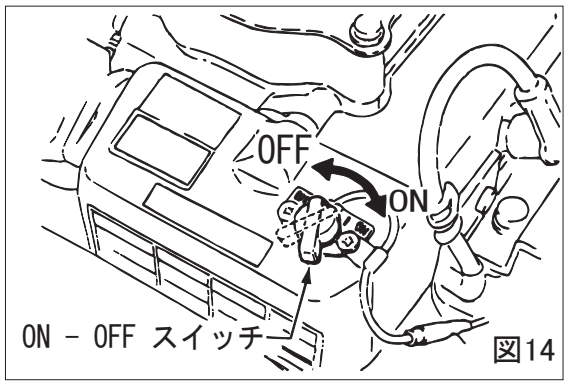


図14

2　燃料コックを閉じてください。

10. 手入れと保存

1　各部のゴミや泥を水洗いして落としてください。

2　格納
ランマーは水平な場所においた姿勢で、エンジンや機体が冷えてから格納してください。この場合、機体が倒れないように必要に応じて固定してください。
やむを得ず機体を横に倒す場合は、燃料タンクのキャップとエンジンオイルのプラグをしっかり締め、エンジンや機体が冷えた後に、エンジンのエアクリーナーが上側を向くように倒してください。倒した後、燃料やオイルの漏れが無い事を確認してください。
(燃料が漏れる場合は、燃料タンクから燃料を抜いてください)

3　ゴミ、ホコリがかからないように、カバーをかけて直射日光の当たらない湿気の少ない場所に格納してください。

4　長期保管する時

- 燃料を抜き、注油・オイル交換を行ってください。
- エアクリーナーの吸入口、マフラーの排気口をしっかり覆ってください。
- 屋内に格納し、屋外に放置してはいけません。

11. 定期点検と調整

11.1 各部点検スケジュール表

点検時期	点検箇所	点検項目	油脂類
毎日(作業前)	外観	傷、ゆがみ、汚れ	
	エアクリーナー	汚れ、傷、変形	
	ボルト、ナット類	緩み、脱落	
	ハンドル	傷、変形、亀裂、破損	
	防振ゴム	傷、変形、亀裂、破損	
	エンジンオイル	汚れ、油量	エンジンオイル
	本体潤滑油	汚れ、油量	エンジンオイル
	燃料タンク	漏れ、量、汚れ	ガソリン
	燃料系統	漏れ、傷、緩み	
20時間毎	エンジンオイル	初回のみ20時間にて交換	エンジンオイル
50時間毎	点火栓	清掃、ギャップ調整	
	エンジンオイル	交換	エンジンオイル
200時間毎	本体潤滑油	初回のみ50時間にて交換	エンジンオイル
200～300時間毎	プレエアクリーナー	清掃	白灯油
2年毎	燃料ホース	交換	
	インテークパイプ	交換	

エンジン関係の点検及び整備の詳細につきましては、付属のエンジン取扱説明書を参照してください。

11.2 点検及び保全作業内容

タンピングランマーの手入れは、必ずエンジンを停止させてから行なってください。
エンジンの詳しい手入れは別紙エンジン取扱説明書を参照してください。

1　毎日の手入れ

各箇所の泥・ホコリ・油等はきれいに引き取ってください。また、油漏れのあった所は増し締めし、各部の締め付けを確認してください。

フート取付用ナットと両側及び前部の押え板用ナットの増し締めを行ってください。長期間使用しているとフートが摩耗して隙間が発生し、ボルトが損傷する恐れがあります。必ず、御使用前に増し締めを行ってください。(図15)

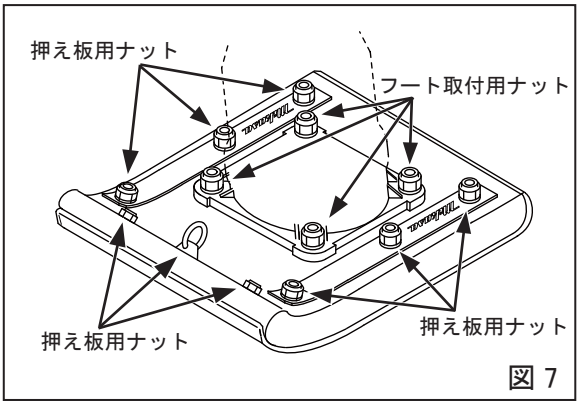


図 7

2　50時間運転毎の手入れ

燃料フィルターのカップを外し、内部をきれいに掃除してください。点火栓を取り外し掃除して火花間隔を0.6～0.7mmに調整してください。

3　潤滑油の交換

機体を水平な場所に置いて、プロテクトスリーブのオイルレベルプラグを取り外し、潤滑油が口元まで入っているかを確かめてください。
潤滑油は自動車用エンジンオイルSEまたはSF級以上の10W-30を入れてください。
MT-55L型は520cc入っております。
オイルレベルプラグ、ドレーンプラグの締め付けトルクは39.2(N・m)<400(kgf・cm)>です。
(図16)

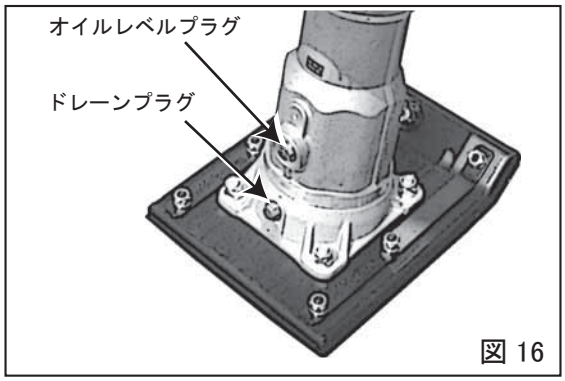


図 16

4 エアクリーナーの清掃(200～300時間毎)

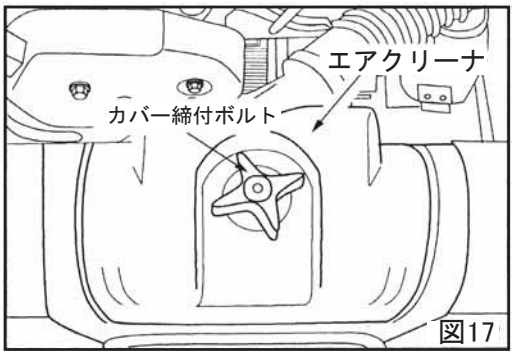


図17

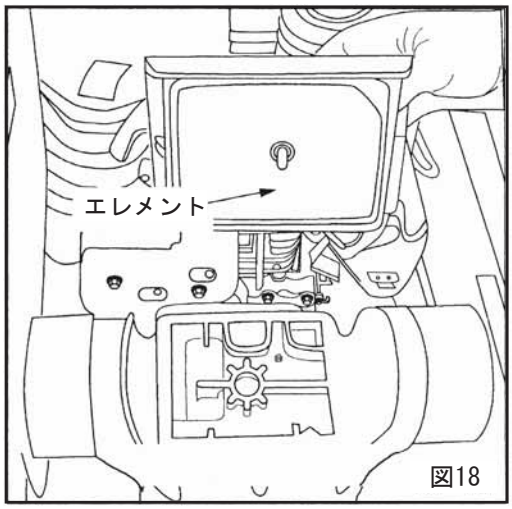


図18

● プレエアクリーナー
クランクケース上部のカバー締付ボルトを外してプレエアークリーナーから、エレメントを取り出します。下側エレメント（黄色）から、7～9ccのオイルを浸み込ませ、上側エレメント（灰色）にも十分になじむようかるく絞ってから組付けます。組付けの際にはエレメントの方向、順序に注意してください。(図17、18)

● エンジン側エアクリーナー
エンジン側のエアクリーナーエレメントはほとんど汚れませんが、点検し汚れている場合は次の手順で掃除してください。
外側のウレタンフォームは紙エレメントから抜き取り石鹸液でよく洗浄し、乾燥させてから取りつけます。
内側の紙エレメントは、内部から圧縮空気を吹き付けるか、軽くたたいて汚れを落とします。
汚れが取れない場合は、エレメントを新品に交換してください。（図19）

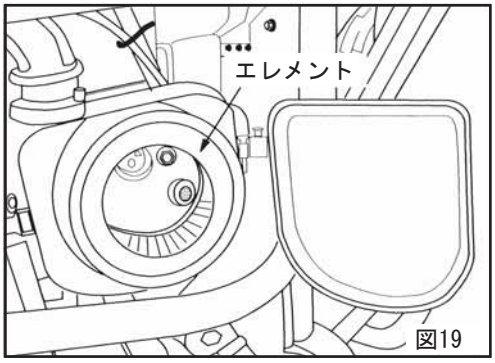


図19

5 燃料パイプは必ず点検し、損傷したり取付部が緩んでいないか確認してください。
点検時に異常が無くても、燃料パイプは2年で交換してください。

6 機体洗浄時の注意
特に高圧スチーム機で洗浄する場合、エアクリーナー、キャブレター、マフラー、タンクキャップに直接水をかけてはいけません。エンジントラブルのおそれがあります。

12. トラブルシューティング

1. エンジン

(1)始動不良

- 燃料があり点火栓が発火しない
  - 高圧コードまで電気が来ている
    - 点火栓がブリッヂしている
    - 点火栓にカーボンがたまっている
    - 点火栓の絶縁不良による短絡
    - 火花間隙不適
  - 高圧コードに電気が来ない
    - 停止ボタンスイッチの短絡
    - イグニッションコイルの不良
- 燃料があり点火栓は発火する
  - 圧縮が良い場合
    - 消音器のカーボンによる閉塞
    - 不良燃料の使用
    - エアークリーナのかぶり
    - 燃料に水又はゴミの混入
  - 圧縮の悪い場合
    - シリンダーガスケットの不良または締付不良
    - ピストンリングの膠着
    - シリンダーの磨耗
    - 点火栓の締付不良
    - バルブシートの荒れ
- 気化器に燃料が来ない
  - 燃料タンク内に燃料がない
  - 燃料コックの開き不良
  - 燃料フィルターのつまり
  - タンクキャップの空気穴塞がり
  - 燃料パイプ中に空気がたまる

(2) 運転不調の場合

- 力　が　弱　い
  - 圧縮がよく失火もない
    - エアクリーナの汚れ
    - 燃料パイプに空気が入っている
    - 気化器フロートチャンバーの油面の狂い
    - シリンダー内にカーボンのたまり
  - 圧縮不足（圧縮の悪い場合を参照）
  - 圧縮が良く失火がある
    - イグニッションコイルの不良
    - 点火栓が汚れている
    - 点火コイルが時折、短絡する
- エンジンの加熱
  - 燃焼室内にカーボン堆積過多
  - 排気孔、消音器のカーボンによる閉塞
  - 点火栓熱価不良
- マフラーから煙が出る
  - 黒煙が出る
    - チョークレバーの戻し忘れ
    - チャンバーのニードルの磨耗
  - 青い煙が出る
    - 圧縮が有る
      - 混合油を入れている
      - オイル量過多
      - 倒し方向の誤りによりエアクリーナーにエンジンオイルの漏れ
    - 圧縮が無い
      - シリンダーピストンリングの磨耗
      - ピストンリングの膠着
  - 白い煙が出る
    - ガソリンに水分が含まれている
    - エアクリーナが水で濡れている

（冬期は始動後、しばらくの間白煙が出ますが、異常ではありません。）

- 回　転　変　動
  - ガバナ調整不良
  - ガバナスプリング不良
  - 燃料の流通不良
  - 吸入管系統からの空気吸い込み

(3) リコイルスターターの動きが悪い

- 回転部のゴミ詰まり
- スパイラルスプリングのへたり

2. 本　機

- エンジンは回るが振幅の不整または衝撃しない
  - 調速レバーの操作が遅い
  - オイル量過多
  - クラッチのすべり
  - スプリングのへたり
  - エンジンのセット回転数不良

Mikasa

MIKASA SANGYO CO., LTD.
1-4-3,Sarugakucho,Chiyoda-ku,Tokyo,101-0064,Japan

三笠産業株式会社
〒101-0064　東京都千代田区猿楽町1-4-3

修理に関するお問合せ
TEL 048-734-2402　　FAX 048-734-7678

部品に関するお問合せ
TEL 048-734-2401　　FAX 048-736-6787

その他のお問合せ
info@mikasas.com

Web パーツリスト
https://www.mikasas.com/MIKASA/index.html

PRINTED IN JAPAN